

やはり俺の海賊王への
道は間違っていない…
多分

喜多悠星

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

海賊王を目指す少年八幡と世界一の剣豪を目指す葉山消えた伝説の海軍の姉を探し倒す事を誓う雪ノ下一族の生き残りを探す由比ヶ浜とある宝とジンを探す一色達の物語！

目次

プログラグ

1

プロローグ

富・名声・力かつてこの世のすべてを手に入れた男

海賊王【ゴールド・ロジャー】

彼の死に際にはなつた一言は

全世界の人を海へ駆り立てた

『俺の財宝？ほしけりやくれてやるぜ？探せしてみろこの世の全てをそこに置いてきた』

世は——大海賊時代を迎える

「……き……君！ひき………ヒキガヤ君！起きなさい！」

女の声が耳に響く。そしてゆつくりと意識が覚醒していき目を覚ます。

「おはよう、ユキノシタ」

一先ず俺を起こしてくれた彼女に挨拶をする。

俺の名はヒキガヤ・ハチマン悪魔の実【ゲンゲンの実】を食べた幻人間。その黒髪ロングの彼女はユキノシタ・ユキノ【コトコトの実】を食べた言の葉人間。

「あつ、ヒツキーやつと起きた？ユキノン？」

「ええ起きたわ」

んであの赤みがかつた茶髪の少女はユイガハマ・ユイ悪魔の実の能力は持っていないが武装色の覇氣に關してはかなりの才能を持っている。ちなみに俺は見聞色、ユキノシタも見聞色を得意としているがユキノシタの場合はあの霸王色を持っている。

「ふう。やつと起きた、ヒキガヤ、君は相変わらず寝起きが悪いね」

「うっせ。馬鹿」

「少なくともこんな時間まで寝てる君には言われたくないな」

こいつはハヤマ・ハヤト。なんとというか俺のライバルみたいなもんだ。んでこいつは大業物の刀を2本拵えている。名前は1つが「朝風」もう1つが「夕風」つー名前らしい。しかもこいつは何故かこの2本の刀に別々の悪魔の実を食べさしている朝風は「ネツネツの実」夕風は「ヒヤヒヤの実」とかなりのチート性能だ。どうやってこんな刀を手に入れたかハヤマに聞くと、秘密だそうだ。まあ何でもいいんだがな。

「せんちよう早く起きて…もう起きてましたか。つて皆さん勢揃いですね」

彼女はイツシキ・イロハ。こいつも悪魔の実の能力は持っていないが見聞色、武装色のバランスがこの中で一番よく最高のアシストが出来るまあサポート要因だ。

あとなんで俺が船長と呼ばれたかは分かる通り俺達が海賊で俺がこの船の船長だか

らだ。5人しかいない小さな海賊団だが結構名が通つてるとは自負している。

「そんなことはどうでもよくてこれ見てください！遂に全員の首に懸賞金が掛かりましたよ！」

イツシキの見せた新聞には確かに俺ら全員に懸賞金が掛けられていた。高い順に

幻影のヒキガヤ・ハチマン

懸賞金 3億5000万ベリ

星剣のハヤマ・ハヤト

懸賞金 1億2000万ベリ

言明のユキノシタ・ユキノ

猛獣のユイガハマ・ユイ

同じく懸賞金 8000万ベリ

錯乱のイツシキ・イロハ

懸賞金 4000万ベリ

以上ヒユハユイ海賊団合計6億7000万ベリ

「あの子」

「待って言いたいことは分かるから」

「うん…」

「やっぱり」

「「「やっぱりユイガハマへユイ」(さん)に名前決めされるんじゃないやなかった……」」
「皆酷い！」

バツチリユイガハマ以外全員とハモったが……だって事実だろ？ただただ全員の名前の最初の1文字をつなげただけじゃん！馬鹿なんだろ！

そしてみんな飯を食いながらぎやあぎやあしている。

ドーン

と地響きがしそうなほどの音がなった。…海だけだね。

「船長。海軍です。面倒いのでちやっちゃやとやっちゃつてください」

イツシキが俺に言う、もつと言葉遣いに気をつけなさい！ほんとにもうはあー行くか。

「げっ！まじでいんじゃない。めんどいけどまあいいか」

そして月歩と剃を使い海軍の船の近くまで行く。

「き、来たぞ！撃てー！」

先に仕掛けてきたのは海軍だった。相手1人なのに卑怯じゃない？まあいいや。やることは変わらないし。

「メモリーズ・シャウト
思い出の幻」

バタバタと、倒れていく海軍を横目に俺は船へと帰った。